

メータオ・クリニック支援の会（JAM）

会報メール 第 10 号 [2009 年 7 月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様
いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第 10 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月、会報メールにて発信いたします。発行は、毎月中旬ごろの予定です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソト・マンスリー 今月のメソトの様子をお知らせします。〔2, 3〕

- ・ [安定した輸血製剤確保のシステム作り](#)
- ・ [賑わい、メソトでも スー・チーさん 64 歳で](#)
- ・ [結核患者どうする 国境なき医師団撤退を受けて](#)（田辺文）

国内のニュース 〔3〕

- ・ [ツアー説明会が終わりました。](#)（岡谷賢孝）

現地スタッフより 〔4〕

- ・ [メソトに来て 1 ヶ月](#)（田辺文）

論考 興味のある方はお読み下さい。〔5, 6〕

- ・ [カレン族のキリスト教信仰と教育の普及について](#)（秋山剛）

国際保健協力のなかで（1） 当会の代表から皆様へのメッセージです。〔6, 7〕

- ・ [一人でも健康が守られ最低限の教育が受けることができれば、将来的にその家族は貧困から脱出され、その地域への改善にも結びつく](#)（小林潤）

編集後記 〔7〕

次号の予定 〔7〕

メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

【メソト（タイ北西部）＝田辺文】



安定した輸血製剤確保のシステム作り

6月16日、「技術と質向上委員会」が開かれました。

今回のテーマは安定した輸血製剤の確保です。

メータオ・クリニックでは、内科で患者の最大数を占めるマラリア、そして原因不特定の貧血（鉄欠乏、またはビタミン欠乏が原因と思われる）のため、慢性的な輸血製剤の不足が続いています。

輸血製剤は主に国境周辺に住むビルマ移民、難民の献血によって支えられており、院内で各種ウイルス抗体検査を施行後 28 日以内に使用されるべく保存されます。特

にこの地域に 50 近く存在する工場の労働者は最大の供給源となっています。

委員会では輸血の単位数、患者数、適応疾患、貧血の程度の記録を徹底し、季節ごとの消費数に合わせて確保することが決定されました。

また、いずれかの型が残数 10 単位以下になった場合、積極的に工場に連絡をとること、5 単位以下になった場合、同型であるスタッフに供給を求めることが決定され、緊急時に対応できる輸血システム構築が始まりました。

賑わい、メソトでも

スー・チーさん 64 歳で

6月19日 ヤンゴンにて軟禁中のアウンサン・スー・チー氏が 64 歳の誕生日を迎えました。

メータオ・クリニックでも海外からのアーティストや平和活動家によるイベントが

おこなわれ、同氏の早期の解放とビルマの民主化を訴えました。

また、メソト市内でもスー・チー氏の誕生日を記念した写真展、チャリティーコンサートが催され、賑わいを見せました。

結核患者どうする

国境なき医師団撤退を受けて

メータオ・クリニック内科病棟の職員から結核疑い例が出たことを受け、6 月 25、26 日に結核予防講習会が催されました。

これまでこの地域の結核治療をサポートしてきた世界的な NGO である国境なき医師団の撤退が間近に迫り、メータオ・クリニックでも結核患者の長期入院を抱える可

能性が出てきています。講習会では、各病棟より参加者を募り、基本的な結核菌の性質、予防方法などが講義されたほか、大部屋における結核患者のベッド配置の工夫などについて話し合われました。



(写真：結核予防講習会の様子)

国内のニュース【東京＝岡谷賢孝】

ツアー説明会が終わりました。

メータオ・クリニック支援の会は、7 月 4 日、JICA 地球ひろばにて、第 2 回スタディ・ツアーの事前説明会を開催しました。

説明会には、ツアーを希望する方を中心に 19 名が参加しました。参加者が主体的にコミュニケーションを図るワークショッ

プなどがおこなわれ、現地への理解を深めました。

一行は、今月 18 日からタイ入りし、メータオ・クリニックや移民学校、孤児院などを訪問する予定です。



(写真 (2 枚とも) : ツアー事前説明会の様子)

現地スタッフより

メソトに来て 1 ヶ月

【メソト（タイ北西部）＝田辺文】

現地に派遣され、1 ヶ月が過ぎました。

私は残念ながら国際保健医療に関して素人で、日本の病院でぼろぼろと働いていただけですから、国際協力とは、途上国で働くとは、など知識やアイデアがない手探りのままに活動をスタートしました。

とにかくこの 1 ヶ月はスタッフと同じように働こうと心がけました。彼らのペースで、彼らのやり方で。

その中で小さな成果とと思っていることをひとつご紹介します。

それは、若いスタッフが私との処置で積極的に動いてくれるようになったこと。

これまで私の働いていた環境では、上の医師の介助の元に下の医師が実際の処置、手技を行うのが一般的でした。そうやって私もたくさん先輩に教わってきました。

しかし、ここでは先輩がいる時には、その人が処置をし、後輩は手伝う。第 3 国定住などで人の入れ変わりが激しいこの病院で、現在 30 歳の私はここで 3 番目に年上です。このため、最初は私がいると若いスタッフはなかなか手を出してきませんでした。

「あなたがやるんだよ。」
そう毎日言うことで、だんだん私の前で処置をしてくれるようになり

「やるから見ていてね。」と私をよんでくれるようにもなりました。

小さいことですがこんなことが、「一緒に働く」ことではないかと考えながら、手探りを続けています。

今後ともよろしくお願いいいたします。



患者さんの家族と（左から 2 番目が筆者）



同僚のスタッフ

★★ 日々、更新中！ ★★ ぜひ、ご覧ください。

Borderless Border's (田辺文のブログ) <http://www.japanmaetao.org/blog/borderless/>

メータオ・クリニック支援の会ホームページにアクセス ⇒

活動・レポート・PR方法 ⇒ 「現地からのレポート」 Borderless Border's

論考【東京＝秋山剛】

カレン族のキリスト教信仰と教育の普及について

JAM 広報の秋山は、学校保健も担当しています。現地に行くと、なにかと関わることとなるカレン族の人々。彼らのキリスト教信仰のはじまりや、教育普及の歴史的経緯について興味があり、以下、(自分の) 参考までに資料をまとめてみました。

- ビルマ・ミャンマーが英領となる以前については、カレン族が文字を持たなかったこともあり、古い歴史や記録はほとんど残っていない。生業は農業の他、狩猟、漁業、機織り、竹細工などに従事していた。居住する国の支配民族に政治的には従属し、カレン族自身は村落以上の社会的、政治的集団は作れていなかった。宗教的には精霊信仰であったが、仏教の影響の強い集団もあった。
- 1813 年にバプティスト派宣教師 Judson 夫妻がビルマに到着し、最初のカレンの洗礼が 1829 年に行われた。
- 東南アジア大陸部山地少数民族は、文字を持たず、またムラを超えた政治的組織を持たない自分たちを、文字や政治的組織をもつ平地民に対して劣ったものと定義する傾向が見られる。彼らの中には、しばしば「失われた知恵の本、または文字」の伝説が残っているが、カレン族にも、「失われた黄金の本」の伝説がある。これらの伝説は、彼らの文字への渴望の象徴と考えることができる。実際に、カレンの人々がキリスト教への改宗において、宣教師に望んだことは、文字と教育であったと言われている。
- バプティスト派宣教師たちは、カレン族に改宗者ができると、なるべく大きな居住単位を作って集住させ、そこに教会と学校を建てていった。
- 19 世紀にアメリカ人宣教師がビルマ文字をベースにカレン語での表記システムを考案した。聖書のほか、教科書や月刊誌などの出版物に用いられるようになった。
- ビルマのデルタ地帯が第 2 次英緬戦争 (1852 年) の後に英領となると、治安の良さと米作の開拓地をもとめてカレンの移住が進み、大きな集落ができると、バプティスト・カレンは教会と学校を建設していった。
- キリスト教の布教とともに、カレン族の間で、ムラを超えた「カレン」の連帯が成立していった。
- 英政府によって、各地に学校が建てられる以前に、宣教師たちは多くの学校を創立しており、私立学校の大半は、カレンの生徒が占めていた。1862 年の英領ビルマ開始時においては、既に英語教育を行う学校生徒 5000 人のうち、1000 人のビルマ人以外はほとんどがキリスト教カレンだったという。
- 1890 年から 1920 年にかけて、カレン族の教育は急速に普及した。第一次大戦当時には、3 万 5 千人ほどのカレン族が小学校、中学校、高等学校のいずれかに在籍しており、東南アジアの山地民にしては異例の傾向を示していた。
- 学歴が高まりとともに、女性は教師や看護師、男性は医師や牧師、また警官や兵士になる者も少なくなかった。カレン族はイギリス支配下で重用されることになった。これは、その後の日本によるビルマの占領期も含め、その後のカレン族とビルマ人との関係とに

しがらみを残すことになった。

<参考文献>

速水洋子 2002 「黄金の本とカレンの文字 ビルマにおけるキリスト教宣教」『20 世紀における諸民族文化の伝統と変容 7 宗教と文明化』ドメス出版 260-276

片岡 樹 1998 「東南アジアにおける『失われた本』伝説とキリスト教への集団改宗—上ビルマのラフ布教事例を中心に」『アジア・アフリカ言語文化研究』56 巻、141-165

飯島茂 1974 「国民形成と少数民族問題—ビルマにおける少数民族の悲劇—」『アジア・アフリカ言語文化研究』8 巻、117-135

上記文献には、カレン族に伝わる「失われた黄金の本」の伝説が、聖書になぞられることによって、キリスト教布教に使われたこと、カレン族の、イギリスによる植民地化への協力、その後のビルマ・ミャンマー人との関係についてなど、興味深いエピソードがありました。個人的には、カレン族による「国」の設立の困難さを理解する一助ともなりました。

国際保健協力のなかで (1)

一人でも健康が守られ最低限の教育が受けることができれば、将来的にその家族は貧困から脱出され、その地域への改善にも結びつく 【東京=小林潤】



先日、総会で言葉を引用させていただいたジェフリー・サックス氏を少し紹介させていただきます。

国際保健の分野で注目されているサックス教授は実は経済学者なのです。現在、アメリカ・コロンビア大学の地球研究所長をつとめ、TIME 誌で「世界で最も影響力のある 100 人」に選ばれています。彼は若年 30 代でボリビアの経済顧問を務め経済対策を行い先進国の融資をあつめ経済危機をすくい一躍脚光を浴びました。そのあとポーランドでも成功をおさめて国際経済の分

野では知らない人はいないようになってきました。

現在では、債務削減等の経済対策だけでなく、貧困対策やエイズ対策等でも積極的活動をされていますし、大統領候補としても推す人も多いそうです。

私が彼の活動で感銘を受けたことは、途上国で蔓延している政治的混乱や収賄に関してあえて避難をせず、貧困層に直接アプローチをしていることです。貧困にあえぐ人たちの潜在能力をみだし、それが伸ばせる最低限の安全な生活を作り出すことが

貧困対策につながり、さらに貧困が大きな原因の一つともなっている紛争をも収めることにつながるという意見とそれに基づく活動です。安全な水や食料が保障され感染症対策等の保健医療サービスが提供されさらに教育を受けられるようになれば、自助努力で貧困から能動的に脱出することができるようになるわけです。そうでなければドナーによって一時的に生活が改善されてもそれは受け身であり貧困は続き、健康はまた守れなくなるでしょう。

簡単なことではないことは、わかっています。但し、政治的混乱、後発途上国の劣悪な環境からくる貧困にたいして、一人でも健康が守られ最低限の教育が受けられれば、将来的にその家族は貧困から脱出され、その地域への改善にも結びつくとは思いませんか。

皆さんは日本が国際援助の柱に保健医療と教育をすすめていることは知っているでしょうか。私はこれは誇るべきことではないかと思っています。

編集後記

先日、おまわりさんに止められた。今月から、雨の日に傘をさして自転車に乗ってはいけないそうだ。ええっ、ニホンはそんなことも取り締まるのか。翻って私たちの支援の現場では、今日も多くビルマ人が取り締まりどころか危機に晒されている。

今号から装いも新たに、内容も盛りだくさんでお届けする会報第 10 号を心ゆくまでご賞味あれ。(お)

次号の予定

次号の JAM の会報は、8 月中旬ごろ発行します。

写真で振り返るスタディ・ツアー

ツアー参加者レポート

などボリューム満点でお届けする予定です。



メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て E メール: support@japanmaetao.org

ホームページアドレス: www.japanmaetao.org

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

